

武道としての剣道が 人生を切り開く



大館高校剣道部
監督 三沢憲之介先生

部員たちからは▼授業では、明るい先生だが、部活のときは厳しい▼生活面の指導、人生に必要な知識を教えてくださいと頼れる先生▼気持ちで教えてください▼自分の剣道が変わったなど、大きな信頼が寄せられています。三沢先生から剣道に寄せる思いを伺いました。

勝ち負けは後から付いてくる

高校の剣道は、技術、体力、生活(精神)面で、中学までとは別世界。経験者であっても、基本から鍛えます。目先の勝ち負けよりも、コツコツと積み重ねて、本当の実力をつけて欲しいと思っています。

基本的な技は教えますが、教え過ぎないように我慢しています。自分で考え、稽古の中で気が付いて身に着けた技だけが、100%自分のものになります。勝ち負けは、結果として後から付いてくるものです。

現在のメンバーで試合を勝ち抜くには、まだまだ時間が掛かると思っていました。彼らは思っていたより早く力を付けてきました。その結果、6市4郡剣道大会(能代市で10月に開催)で優勝することができました。

稽古中は全員五分面を外したら先輩後輩

部活動の中には、やや厳しい上下関係があります。それは、鍛練を重ねてきた人生の先輩、後輩という関係でもあります。ただし稽古中は全員五分の関係。ひとたび面を外したら、先輩後輩として、それぞれの役割があります。後輩は先輩を敬い、先輩は後輩の見本とならなければ

ならないということです。

日本文化として剣道を伝えたい

大館高校では、剣道が学校の伝統でもあるので、体育の授業にも剣道を取り入れています。

道場は、内面に問いかける修行の場、自分の弱さを克服する場であり、うそ偽りのない場です。神聖な気配を感じ、正座をして防具を着けると、生徒は新鮮な気持ちになるようです。

高校生は、自分なりの価値観を持ち自立を始める年代。彼らの中に、剣道が日本文化の一つとして伝わり、国際的な価値観を持つてもらいたいと思っています。

剣道に打ち込んで人生を切り開く

自分の剣道は、小学校の頃に近所の剣道場をのぞいたのがきっかけで始まりました。現在も、剣道部の指導をしながら、自身の修行も続けています。

剣道は、修行を重ねることに深みを増し、生涯を通じて行えます。あらゆる年齢層と竹刀を交えて心のやり取りができるところが剣道の魅力です。生徒たちには、剣道に打ち込むことで、今後の人生を切り開いて欲しいと考えています。

保護者に聞いてみました

部活を始めて変わりましたか？

●親が教えられることもあります

(石田君のお母さん)

高校になって、精神面で強くなりました。全然違います。サポートする側としては、苦労よりも楽しみの方が多いです。勝ち負けに関係なく、頑張っている、成長している姿を見ると、逆にこっちも頑張らなければと思います。教えられることがたくさんあります。

●上下関係は大事です

(山内君のお母さん)

足が悪かったので心配でしたが、本人が高校で剣道をやると言い出しました。親が何を言っても聞かれません。

散らかし放題で自分のこともできない子だったのに、部活で先輩たちのものをたんだりしているのを見て、すごく驚き感動しました。やっぱり上下関係は大事だと思います。

●続けたことは必ず役立つはず

(秋元君のお母さん)

成長の過程で、上下関係を体験することは、社会に出てから役立つと思います。剣道は礼儀も身に着くので、しっかり続けて欲しいです。最近、周囲に気を使えるようになりました。

自分たちで考え、取り組む年齢ですから、親としては良い距離感を持ちたいと思います。

●忍耐力が付いてきました

(柴田君のお母さん)

厳しい上下関係に、付いていけないかなと心配でした。最近、特に忍耐力が付いてきたと思います。高校生になって、大人に近付いてきた実感があります。1年生なので、まだ親子の会話はあります(笑)。